



# 見逃されがちな災害時の大問題 災害時のトイレ

2026年1月17日  
令和7年度藤枝市防災研修会

岡山 朋子（大正大学 地域創生学部 地域創生学科）

# 内容

- ・災害時のトイレパニックと避難所のトイレ管理
- ・能登半島地震の避難所トイレの実態
- ・トイレパニックを防ぐ災害トイレの備え

## 岡山朋子 プロフィール

大正大学地域創生学部地域創生学科 教授

静岡県生まれ

名古屋大学大学院環境学研究科修了、博士（環境学）

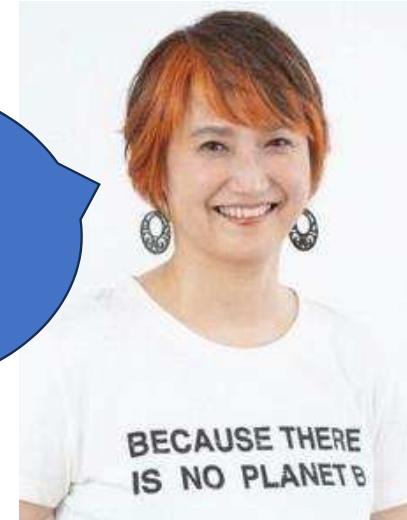
専門は廃棄物管理、循環型社会政策論、温暖化対策政策論

**2000年の東海豪雨を機に水害廃棄物処理、東日本大震災より災害廃棄物処理・災害トイレとし尿処理の研究を行っている**

名古屋を中心とした食品リサイクルの取組である「おかえりやさいプロジェクト」のリーダー

『ごみについて調べよう1～3』あかね書房（2019）を監修

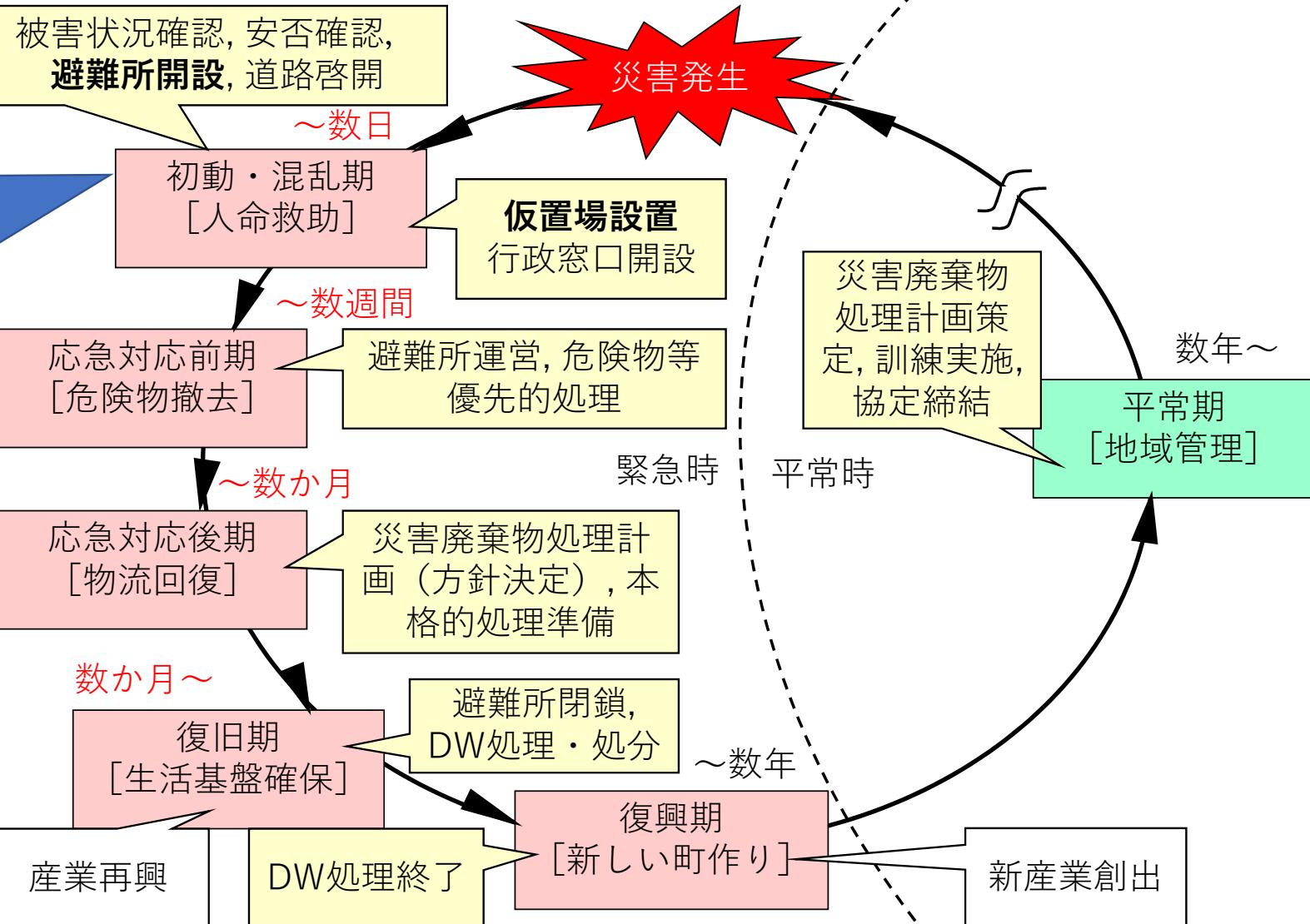
白髪を天然  
ヘナで染め  
ているた  
め、その部  
分が赤毛



# 行政の大規模災害マネジメント・災害廃棄物管理サイクル

72時間（3日間）とされているため、災害廃棄物対応も3日後からとされている災害廃棄物処理計画多数=手遅れリスク大

**【初動期】**  
 ・水害では雨が上がった途端に（夜が明けたら）片付けごみの排出開始  
 ・トイレは発災後すぐ必要



# 災害廃棄物の種類

項目	内容	資機材等	
道路啓開 危険物撤去	道路上の土砂・流木・危険物等の撤去 遺体移動・一時保管	ブルドーザー, ユンボ等重機、遺体収容袋・ブルーシート等	
避難所ごみ 生活ごみ	公共施設等に避難所開設、災害用トイレごみ及び処理、し尿汲取り 自宅避難者ごみ収集運搬は一時中止・状況に応じて再開	避難所設置資機材（木材、ブルーシート、毛布等）、ごみ分別段ボール・袋、収集用車両	
トイレ対応 し尿処理	仮設トイレ・携帯トイレ、 し尿処理・衛生ごみ処理等 簡易水道・ポンプ、簡易排水処理	輸送用車両、備蓄携帯トイレ、テント、バキューム車等、 発電機、パイプ、重機等	
片付けごみ	被災家屋等から排出される家財などの収集運搬体制確立、仮置場開設・管理	仮置場資機材：分別看板、敷鉄板、コーン、監視員用仮設、台貫、収集用車両等	
解体がれき等	解体受付・スケジュール確立、解体ごみ一時集積場・処理場開設	一時集積場、解体用重機・作業員、破碎機・ふるい等、手分別人員	

# 発災後すぐ開設される避難所

- ・グラウンドなどの広場があり、多数の人を収容でき、かつ物資の集積・配達ができる施設  
→ 小中学校、公民館など公共施設
- ・広域避難所・一時避難所・防災拠点としての位置付け
- ・避難所開設と仮設トイレ等の調達は同時に（別々に）行われる
- ・宿泊施設ではないので多数が長期間滞在できる**生活環境保持**は極めて難しいが重要
- ・**断水**しているとトイレの水も流せず**衛生保持が困難**だが重要  
→ 避難所だけではなく、自宅避難でも同様

# 避難所のトイレ！？



2011年  
東日本大震災  
宮城県

# 災害時のトイレに関する法と計画

災害対策基本法（1961年11月）内閣府

←伊勢湾台風（1959年）を受けて

- 防災基本計画（国）
- 地域防災計画（地方自治体）

避難所開設  
(仮設トイレ  
がメインの)  
災害用トイレ  
の確保

廃棄物処理法（1970年）環境省

- 災害廃棄物処理基本計画

仮設トイレなど設置  
し尿処理

避難所におけるトイレの確保・管理ガイドライン

- 内閣府, 2022年4月改定

マンホールトイレ整備・運用のためのガイドライン

- 国土交通省, 2018年3月, 2021年3月改定

現在の防災基本計画に  
おける災害用トイレ

- ①携帯トイレ
- ②簡易トイレ
- ③マンホールトイレ
- ④仮設トイレ

携帯トイレ・仮  
設トイレ・マン  
ホールトイレな  
どの備蓄と運用  
契約書例・  
チェックリスト

# (地震や洪水ではなく) 停電・断水が**大災害**

- ・水ポンプも稼働しないので（圧送の場合も4階以上で）**断水**
- ・下水処理場、し尿処理施設、浄化槽も停止
- \* 2018年9月胆振東部地震：北海道ブラックアウト  
(約2日間)
- \* 2019年9月台風15号：千葉県・南総地域 長期間停電  
(場所によっては1ヶ月以上)
- ・長時間断水すると、トイレの水（1日1人60～70ℓ）も流せなくなる  
 **水洗トイレが使えなくなる**
- ・地震によって上下水道管が破断することもある = **断水の長期化**

# そして断水後 24h以内に必ず起こるトイレパニック

- 最初の避難場所が近くの小学校だったので、そこで使いました。地震直後から、水は断水していたので、初めは水も流れず、溜まっていく一方でした
- 出張所のトイレ使用。オマルのようなトイレに砂のようなものをかけ、次々に大便をした。あまりにひどいので小学校に移動した
- 流す水がなかったのでみんな用を足しそのままだった

熊本地震における被災者アンケートより

- 大地震のたびにトイレは大便でてんこ盛り、あちこちに散乱
- トイレパニックなぜ起こる？

# 発災後トイレに行きたくなつた時間 (熊本)

## 調査の概要

直接記入方式 (ポスティング方式による配布後、返信用封筒で回収)

※ポスティングは熊本地震被災地域の 1,400世帯

有効回答数

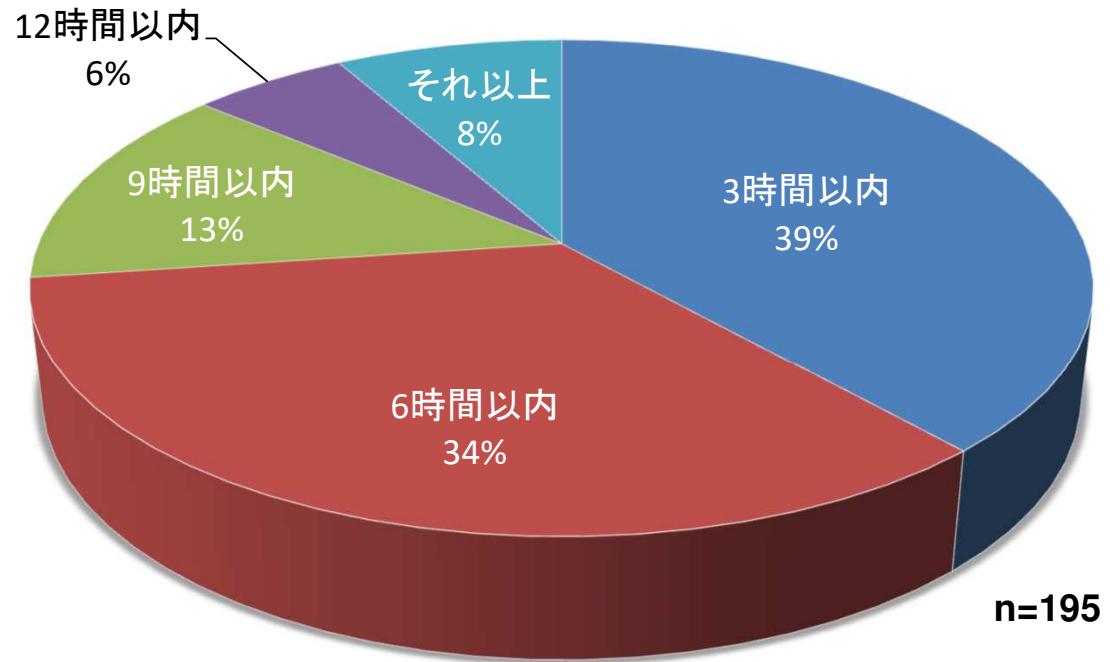
234s (熊本地震災害仮設住宅居住者)

回収率17%

ポスティング : 2016年11月1日(火)

調査票回収期間 : 2016年11月1日(火)から

12月31日(土)の 61日間

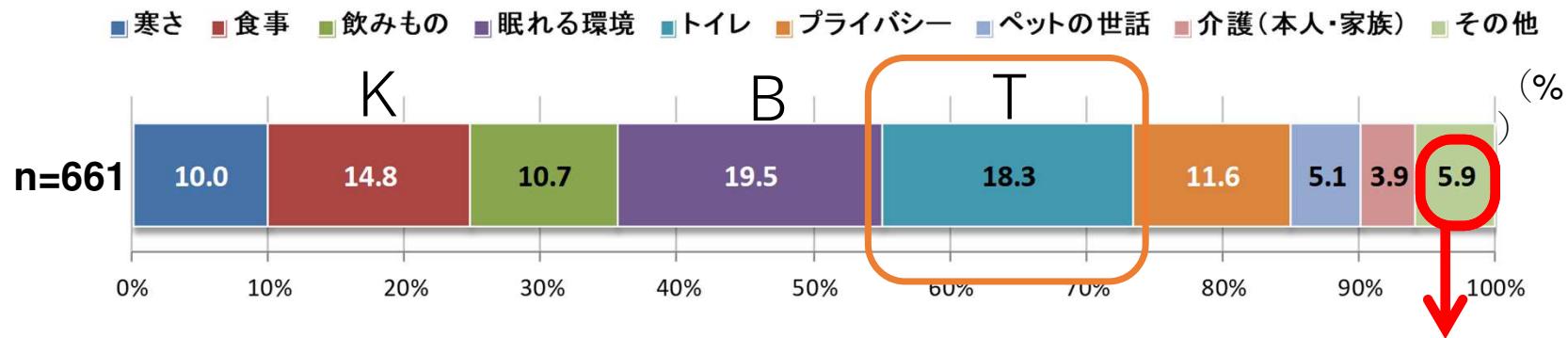


6時間以内までに73%がトイレに行きたくなつてている

→ つまりトイレは水・食事以上に待つたなしだから！  
\*行政職員も含め人類誰も例外なし

# 避難所生活初期で困ること（熊本）

トイレはやっぱり食事や飲み物よりも重要！！



## その他の主な内容（抜粋）

- 着る物や下着、靴下、タオル、ウェットタオル・ウェットティッシュ（水が出ないため）、水や湯（顔や体を拭きたかった）
- 着替える場所（男女皆一緒に地区単位だった）
- 屋内にいても掃除用具がなく（汚物入れ等も）、清潔感がなかった。体調を悪くする人が多かった。オムツ類は室内の暗さにて交換ができにくかった。
- 狭くて暑いため、寝返りがうてない状態であったし、エアコンが運転されなかった
- 食あたり、ストレスのせいで下痢嘔吐があったので、薬が欲しかった。
- 発達障害児がいて、世話や対応が難しかった
- 情報がわからなかった

# 避難所とTKB48

2018年  
西日本豪雨  
岡山県倉敷市



改善例



TKB

- ・快適なトイレ
- ・温かい食事
- ・ベッド  
&プライバシー

## 避難所例①

# 愛媛県宇和島市吉田町の吉田公民館

- 2018年7月 西日本豪雨で被害を受ける
- 1ヶ月以上断水
- 避難所では給水車から避難所となった公民館の水槽にポンプアップし、トイレ等水が流れるようにした
- 避難所は極めて快適な空間になっていた
- 公民館主事は「有能な御用聞き」に徹していた

女性避難者がマネジメント  
防災士のマネジメントも  
重要

※このような対応ができていたため、この避難所では備蓄してあった携帯トイレは使用しなかった



# 宇和島市吉田公民館

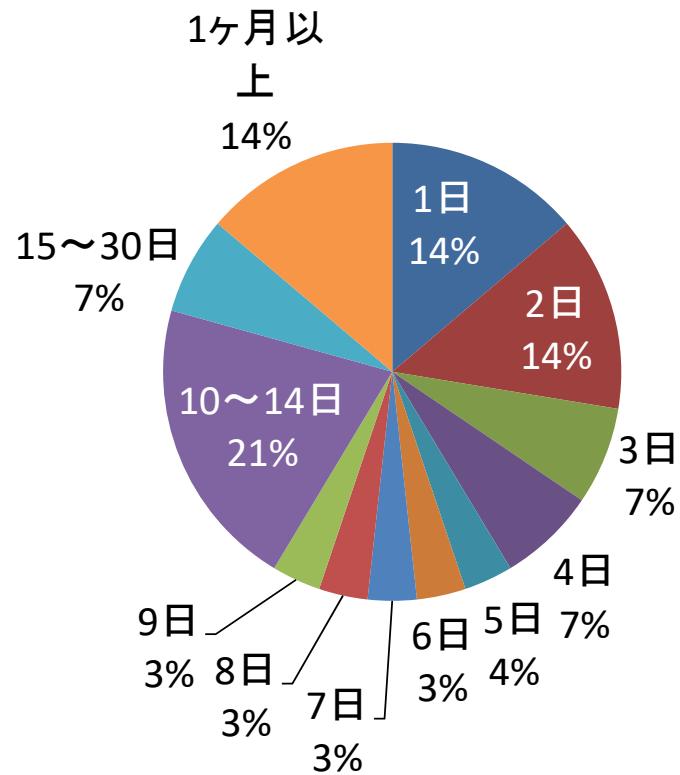


## 避難所例② 熊本県西原村

- 1つの中学校、2つの小学校が避難所に
- 村職員約90人
- 開設した直後に、**避難者のうち女性**（母親たち）が、①床の拭き掃除②トイレの水確保③飲料水確保④食料の確保を村職員に指示
- 職員は、雨で濡れた体育館入口が滑らないように対応、湧き水を交代で汲みに行き、近隣の農家などに米の供出要請
- 避難者の工務店・電気工事業者などの協力を得て豆腐工場の井戸から**簡易水道を敷設**

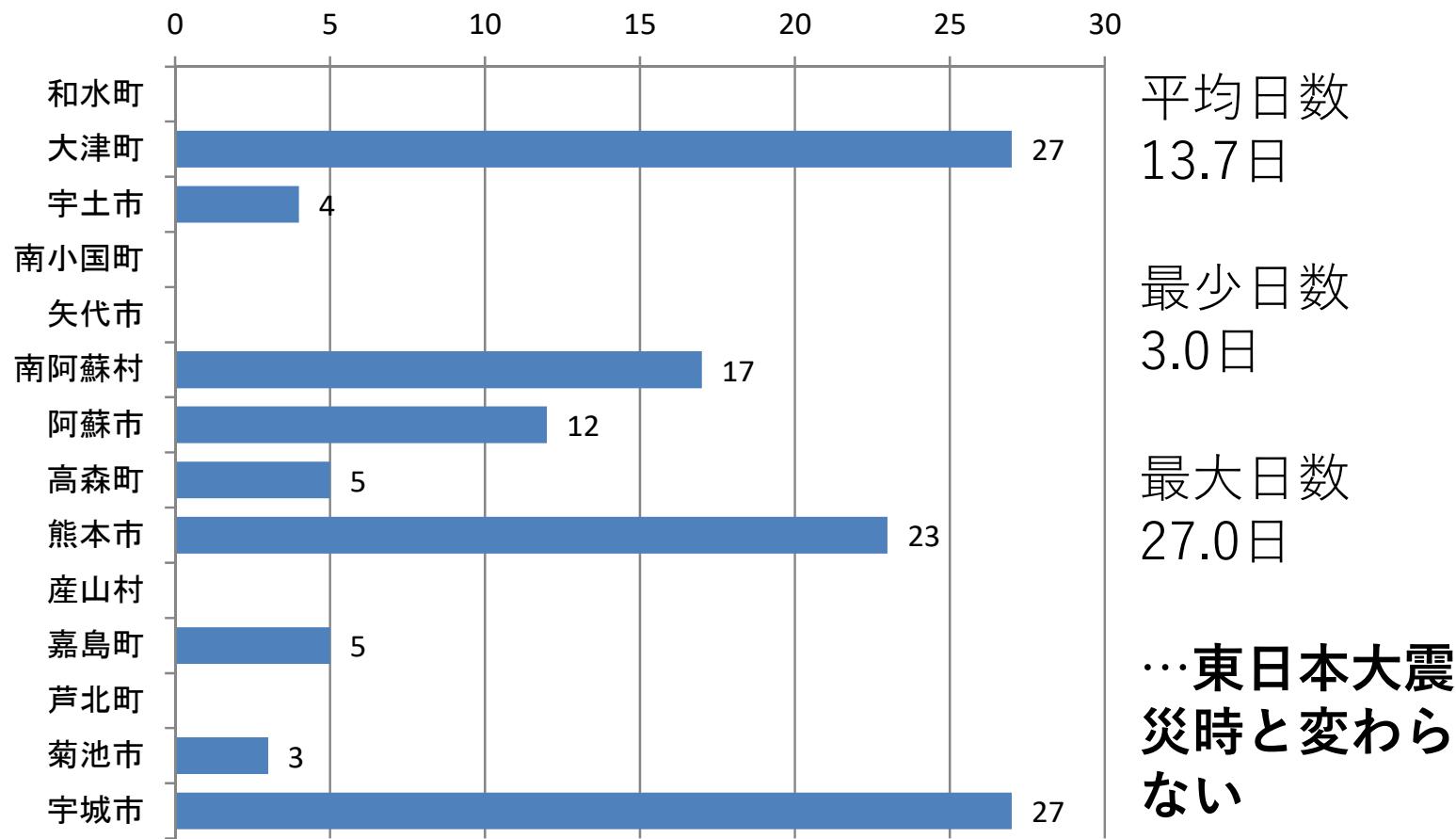
避難者自ら水を弾いたりトイレを作る事例は他にもあり

# 仮設トイレの問題：充足するのに時間がかかる（東日本大震災）



- ・発災後から3日以内と回答した自治体は10件で全体の3分の1
- ・4～7日という回答が5自治体、8日から14日が8自治体
- ・1ヶ月以上要した自治体も4
- ・道路を啓開する時間要したこと、また、道路啓開してもすぐに仮設トイレが届かなかった状況が推察される

# 避難所等の仮設トイレ数が充足するまで 要した日数 (熊本)



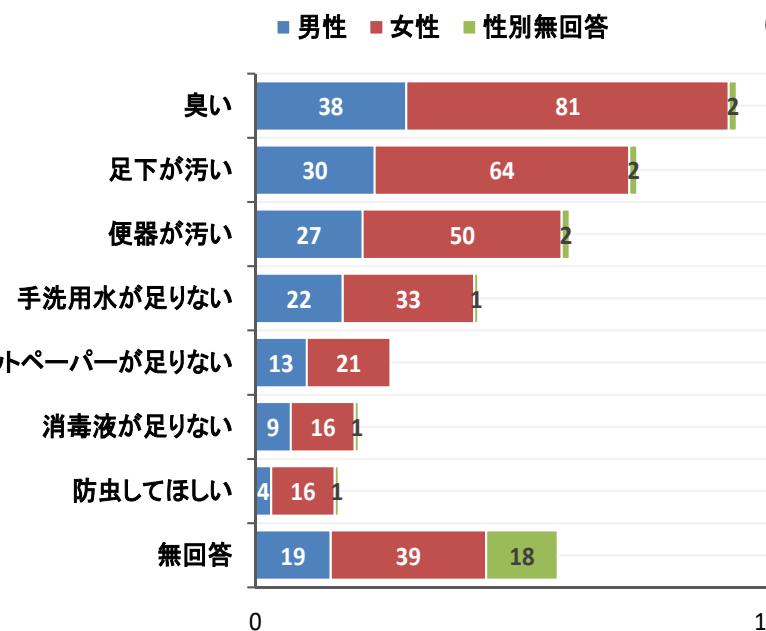
# つまり仮設トイレは間に合わない！

- ・諸々の計画に基づいて発災後に行行政が調達しようとしても、間に合わない
- ・排泄は待ったなし！
- ・するとどうなる？  
トイレパニック発生

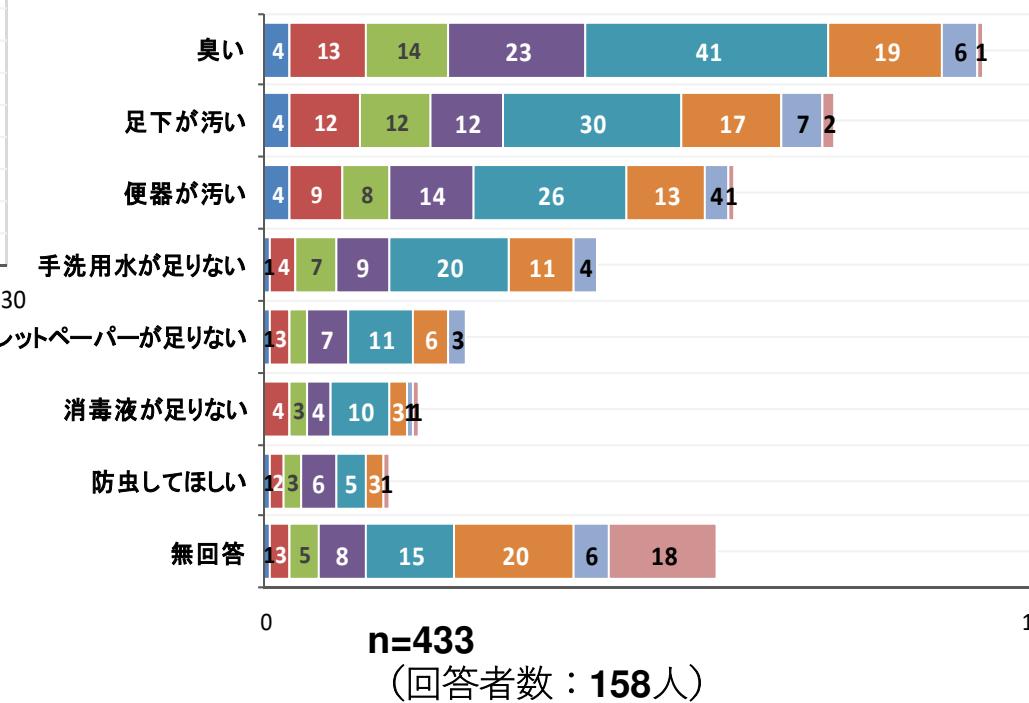


- ・**例えば1,000人が避難した避難所では24時間以内に1,000の大便がトイレにてんこ盛り、その他のところに散乱**
- ・阪神淡路大震災以降この事態は「トイレパニック」と呼ばれる
- ・汚物とペーパー以外のものが混合するとバキュームで汲めない

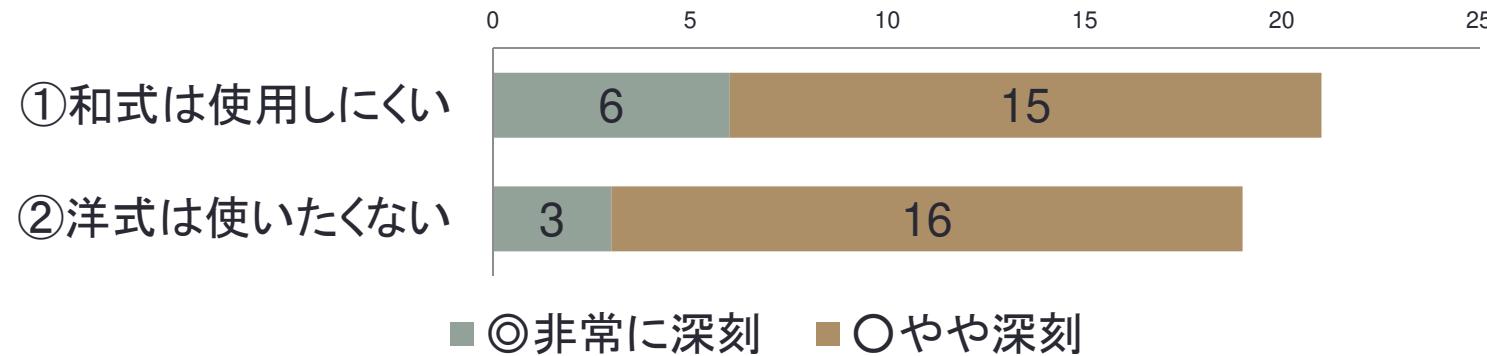
# そのほか、仮設トイレの衛生面での問題 (熊本)



■ 20代 ■ 30代 ■ 40代 ■ 50代 ■ 60代 ■ 70代 ■ 80代 ■ 無回答



# 仮設トイレの様式における問題（石巻）



設問回答者延べ数に占める女性回答者延べ数の割合 81.6%

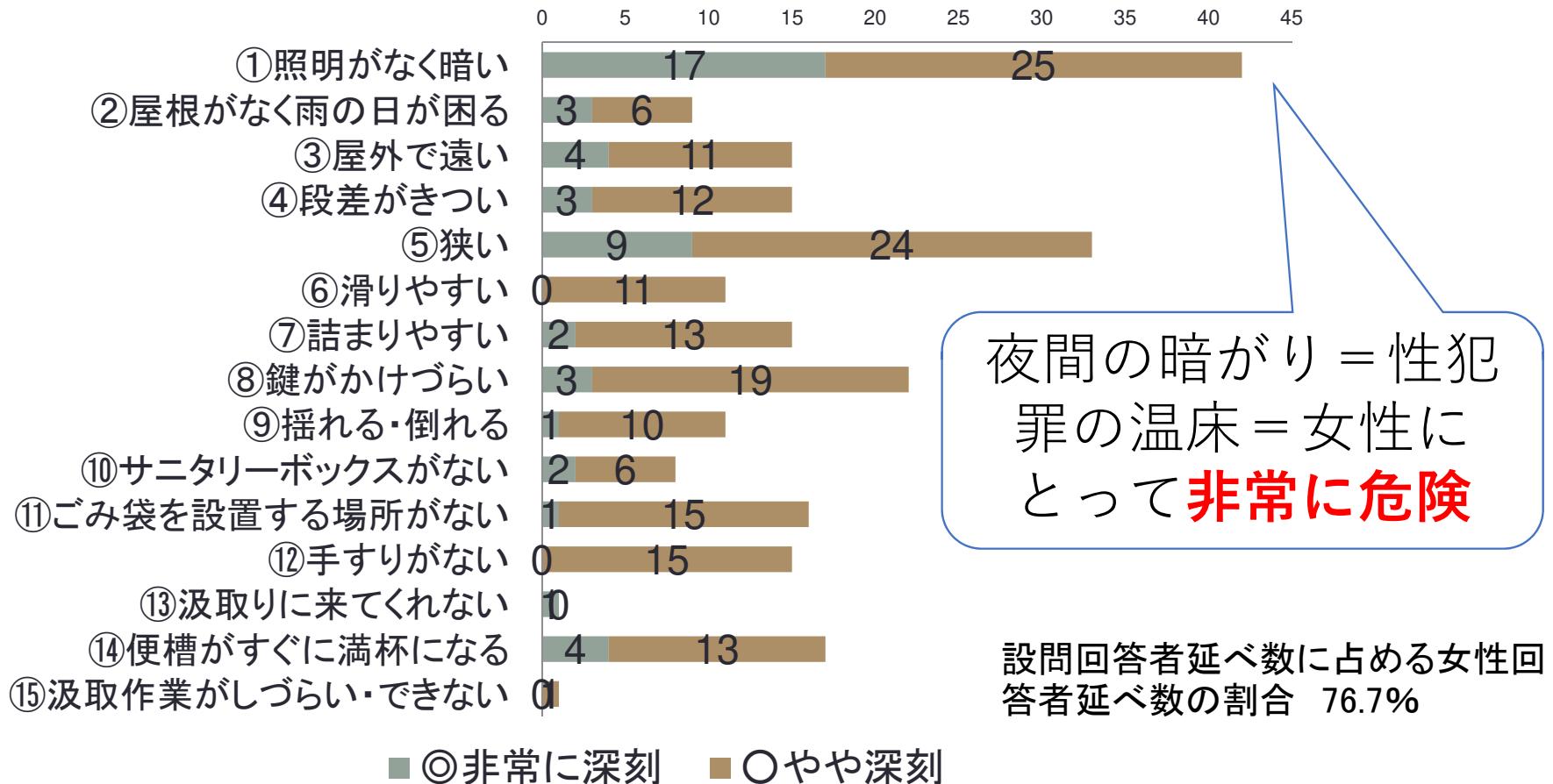
男性はトイレの様式は気にしない？

誰にも

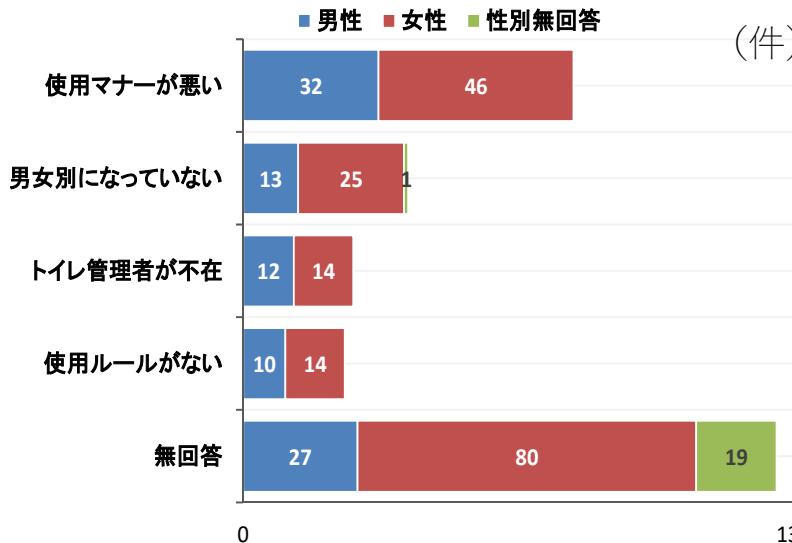
段差ある和式トイレは使用困難



# 仮設トイレの設備に関する問題（石巻）

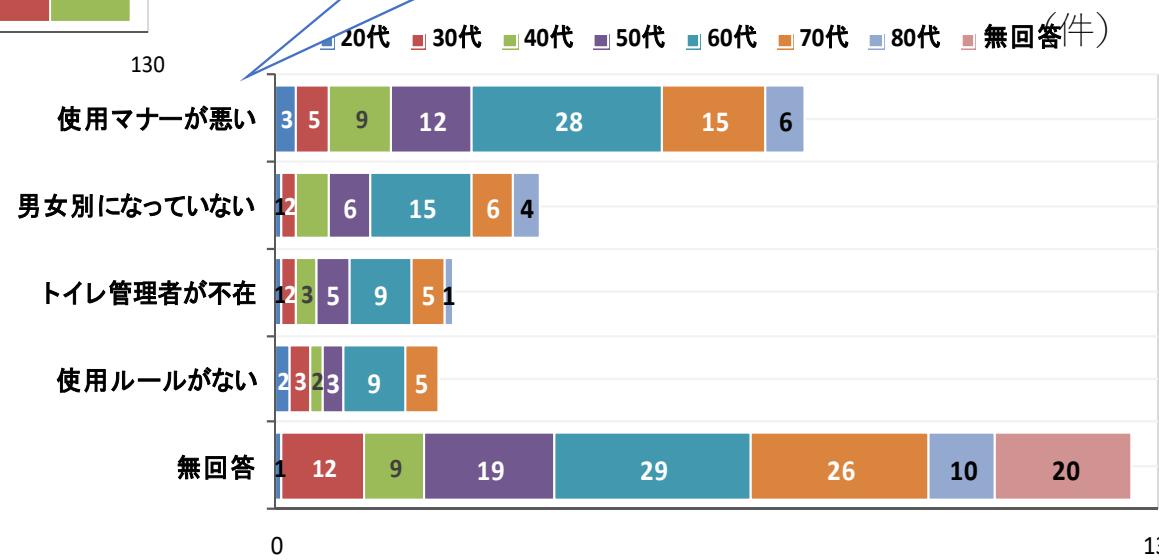


# 仮設トイレの利用における問題（熊本）



（他の人の）使  
用マナーが悪い

n=167  
(回答者数：108人)



特に女性は仮設トイレ  
の使用がとても嫌！！  
だから使わないように  
飲食を控えてしまう

## 女性の搬送目立つ

# 仮設トイレの諸問題 女性はトイレ弱者

- ・仮設トイレは女性にとって、汚い・臭い・暗い・危険の4K
- ・熊本でも仮設トイレを使用したがらない女性が、エコノミークラス症候群になってしまう事例多発→
- ・仮設トイレしかない避難所の状況は、女性にとっては最低限の健康と尊厳が守られていない状況
- ・避難所の暮らしにくさ・ストレス = 災害関連死リスク

「経験したことのない、きわめて異常な状況」肺塞栓症（エコノミーク拉斯症候群）とされる患者が17、18日の2日間で10人が搬送された済生会熊本病院の中尾浩一副院长は話す。うち8人が女性だった。この病気が注目されたのは2004年の新潟県中越地震がきっかけだ。2週間に以内に発症したのは少なくとも11人。いずれも女性で、そのうち6人が亡くなつた。今回の地震では19日までに18人が報告されている。中越地震も調査した榎和彦・新潟大講師（心臓血

管外）は「非常に速いペース。車中泊や避難所生活を続ける、運動する機会が減って血流が悪くなり、リスクは増える」と話す。なぜ多発しているのか。なぜ多発しているのか。熊本市民病院の橋本洋一郎・首席診療部長は余震の多さを指摘する。気象庁によると体に感じる震度1以上は2004年の新潟県中越地震は19日までに600回を超え、この日夕方にも回を超過する。この日夕方にも震度5強の余震が起きた。「これだけ多いと家の内にいたくない。2回目に大きな地震があったことで、疑心暗鬼になっている」

水道などの復旧も遅れて、女性の回数が増えない」と話す。女性は「近くにトイレがない」「トイレが混んでいる」といった状況だと水分をとるのを抑えてしまう。熊本市の担当者は「避難

する」といふ。熊本市内で診察をした南多摩病院（東京都八王子市）の朽方・規喜医師は「トイレの回数が増えないよう、水を控えるようになつてしまつ」とみる。こまめに水分を取らないと血栓ができやすくなる。日本大板橋病院の前田英明・血管外科部長は「女性が搬送されるケースが多いのはトイレを我慢しているためだと考えられる」と話す。女性は「近くにトイレがない」「トイレが混んでいる」といった状況だと水分をとるのを抑えてしまう。熊本市の担当者は「避難所が多く対応に手が回らなかつた」。本格的に地元の保健師らが被災地を巡回し、予防するためのチラシ配布を始めたばかりだ。新潟大の榎和彦さんは、「19日、益城町の運動場や校舎で避難者を対象にひざから下の静脈のエコ一検査を実施。26人を調べたうち、4人に血栓やそれにつながる血のよどみがあつた。

地元彦健康増進研究部長は「携帯型や簡易型のトイレの重要性を指摘する。

」

# さらに仮設トイレの緒問題

- ・段差があって登れない
- ・和式が多い
- ・男女別でないことが多い

男女別になっていても女性の基  
数が少ない（宇和島市）



最近は洋式の仮設トイレもあ  
る。しかし、和式を改造して  
いるのでペーパーが背中側に  
ある



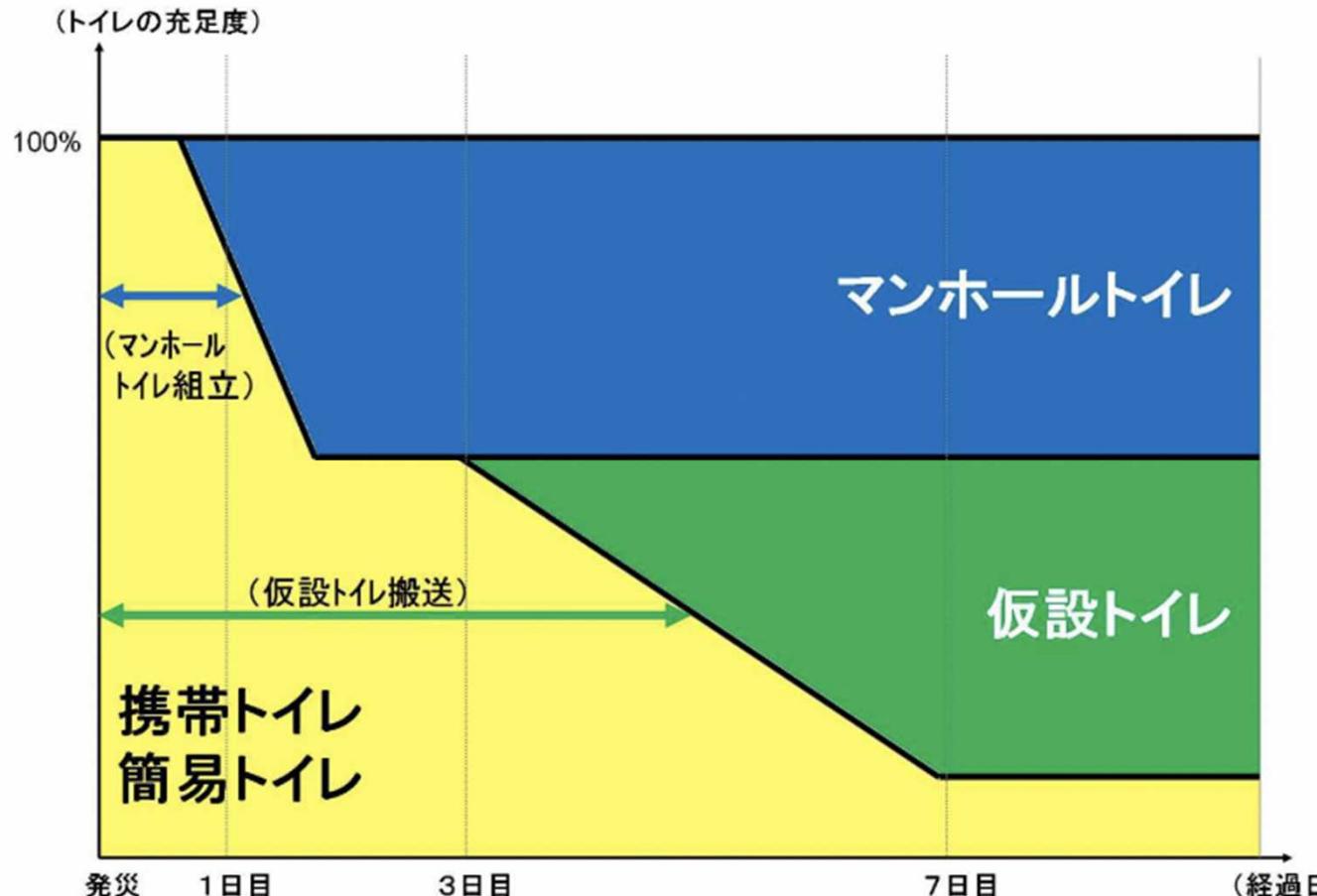
# まだある仮設トイレの緒問題

- **朝ラッシュ** → トイレの分散が重要（朝だけ）
- 浦安市（2011年）では朝4時から4時間待ちの事態に
- 西原村（2016年）では避難所の避難者が朝だけ仮設トイレを使用

スフィア基準  
(避難者20  
人にトイレ1  
つ) を満たし  
ても、朝ラッ  
シュは防げな  
いかも？



# 代わりに脚光を浴びたのがマンホールトイレ



## マンホールトイレ の利点

### 発災後すぐ使用可能

- ①マンホールはどこにでもあるので、発災後すぐに組み立てれば公衆トイレの出来上がり
- ②仮設トイレやトイレカーのように、搬送されるのを待たなくとも良い

トイレの充足度のイメージ図

（出典：国土交通省：マンホールトイレ整備・運用のためのガイドライン2021年度版）

# しかしマンホールトイレにも問題が

- ・屋外にあるトイレという意味では**仮設トイレと同じ**（女性4K）
- ・高齢者が手についてトイレごと倒れてしまうリスク
- ・どこにでも設置できるというものではない
- ・マンホールの開け方がわからない・テント設置に苦戦
- ・マンホールが見つからないことも（グラウンドで砂などで）



# そこで次に注目されているのがトイレカー等 その特徴 メリット・デメリット

- ・ 内部はキレイ、普段使うトイレを変わらないトイレ でも…
- ・ トイレカー：自走可（自走式トイレ）
- ・ トイレトレーラー：自走不可（牽引式トイレ）  
→仮設トイレは車載式トイレ
- ・ **階段あり** 夜間・雨天・高齢者の昇降が危険
- ・ 1台のトイレ基数が少ない その割に
- ・ 高額（小型：2,500万円、大型：5,000万円）
- ・ 仮設トイレと共通して**屋外設置**
- ・ **被災地に届くまでに時間がかかる**
- ・ **洗浄水の注水必要**：できないと水洗不可
- ・ **し尿の汲み取りが必要**



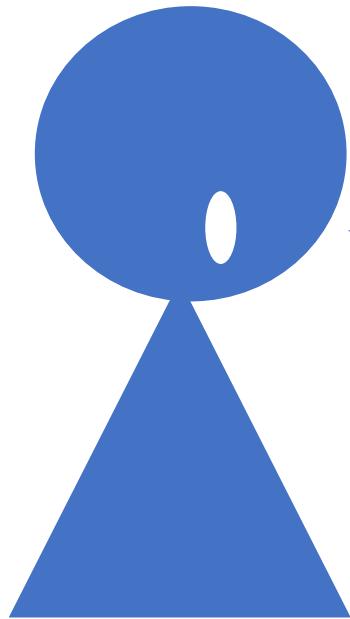
# 災害用トイレの優先順位

- ①自宅の水洗トイレ（最も慣れている）
- ②職場や学校などの水洗トイレ（まあまあ慣れている）
- ③公共トイレ（キレイならばOK、でもキャンプ場など汲み取り・屋外・虫がいる…となると順位はかなり下がる）
- ④汲み取り式の公共トイレ
- ⑤自宅のトイレに水を確保して流して使う …このあたりから災害用トイレ
- ⑥避難所（職場・学校など）の水洗トイレに水を流して使う
- ⑦自宅や避難所のトイレで携帯・簡易トイレを使う（し尿固化） ← **携帯トイレに注目**
- ⑧トイレカー・トイレトレーラー
- ⑨マンホールトイレ
- ⑩仮設トイレ
- ⑪おむつ・ペットシート・新聞紙・ビニール袋を使う

※⑤～⑧の順位は調査結果に基づくものではない。また、岡山の都度の考え方によって変更されることがある

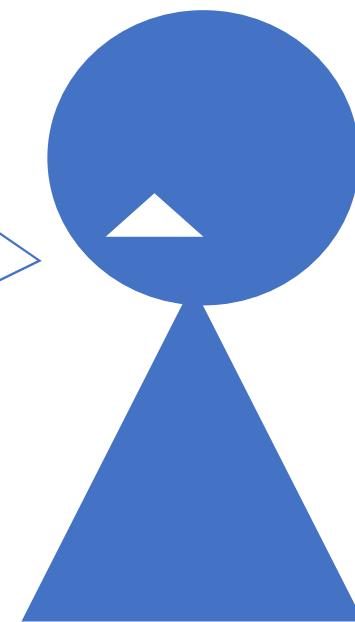
東日本大震災時 (2011.3)

廃棄物資源循環学会タスクフォースの一員として仙台市  
に派遣される前(2011.4)



津波に破壊さ  
れた下水処理  
場に接続して  
いる90万人に  
携帯トイレを  
配布しよう

そんなこ  
と、でき  
るわけが  
ない！！



と、即答されましたが…

# 携帯・簡易トイレの特徴 メリット・デメリット

- ・（仮設トイレ・マンホールトイレと違って）**屋内で使用できる**
- ・（マンホールトイレ同様）備蓄しておけば**発災直後に即使用可能**
- ・携帯トイレ：便器に設置して使用する袋式トイレ
- ・袋の中に吸収シートや凝固剤を入れて大小便を固化
- ・簡易トイレ：和式便器を洋式化したり、トイレ数が不足する場合に、あらたなスペースに設置できる便座付きの携帯トイレ

ただし大量のごみ発生！  
(デメリット)



# 携帯トイレは最初の水との遮断がキモ



1

便座をあげて便器に  
ポリ袋をかぶせます。



3

用を足した後、排泄物を  
固めるシートか凝固剤を  
入れます。

※ 凝固剤を入れるタイミングは  
製品により異なります。



2

便座をおろして、  
その上から携帯トイレの  
袋をかぶせます。



4

便器につけた携帯トイレを  
外して口をしっかりとしばり  
ます。

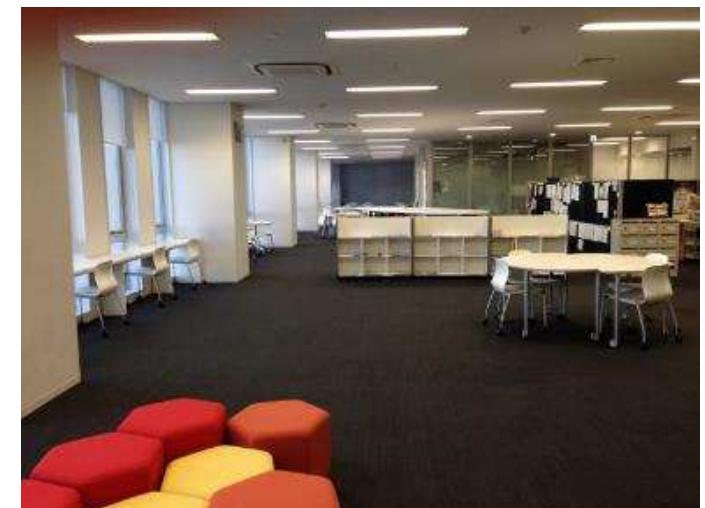
神奈川県HPより

# 避難所（大学）を想定した 携帯トイレ廃棄物発生量試算



- 全職員・学生が帰宅困難に。写真のフロアに男女350名が避難するものとする
- 道路は3日間で啓開されるものとする。従って大学滞在は3晩（3泊4日・72時間）とする
- 洋式トイレに便袋をかぶせて中に固化剤（薬剤）を入れて、小便大便とも固化するものとする（大便用と小便用のトイレを分けない）

- 固化した大小便の便袋他ウエットティッシュや生理用ナプキンなどトイレに付随するごみは、各トイレでダンボールに集積するものとする



# 災害の携帯トイレ関連ごみ量推計 (72h)

災害時トイレ関係ごみ	男性	女性	計I (kg)
小便	1050.0	735.0	1785.0
大便	78.8	78.8	157.6
トイレットペーパー	3.2	9.5	12.7
生理用ナプキン		10.6	10.6
ウェットティッシュ	21.0	21.0	42.0
薬剤入り便袋	73.5	73.5	147.0
ビニール袋 (大)	0.4	0.4	0.8
計 (kg)	1226.9	928.8	2155.7

- ・ 使用済みし尿袋は、衛生的に隔離管理されることが重要
- ・ 男女とも1日4回小便、1回大便するものとした。尿量は男性が500ml、女性が350ml、大便は男女とも150gとした
- ・ ペーパー使用は、男性大便1回3.15m、女性大便は3.52m、小便が1.45mとした :平均3mとした
- ・ 女性には全員1日5枚の生理用ナプキンを配布するものとした (下着の汚れ防止のため)

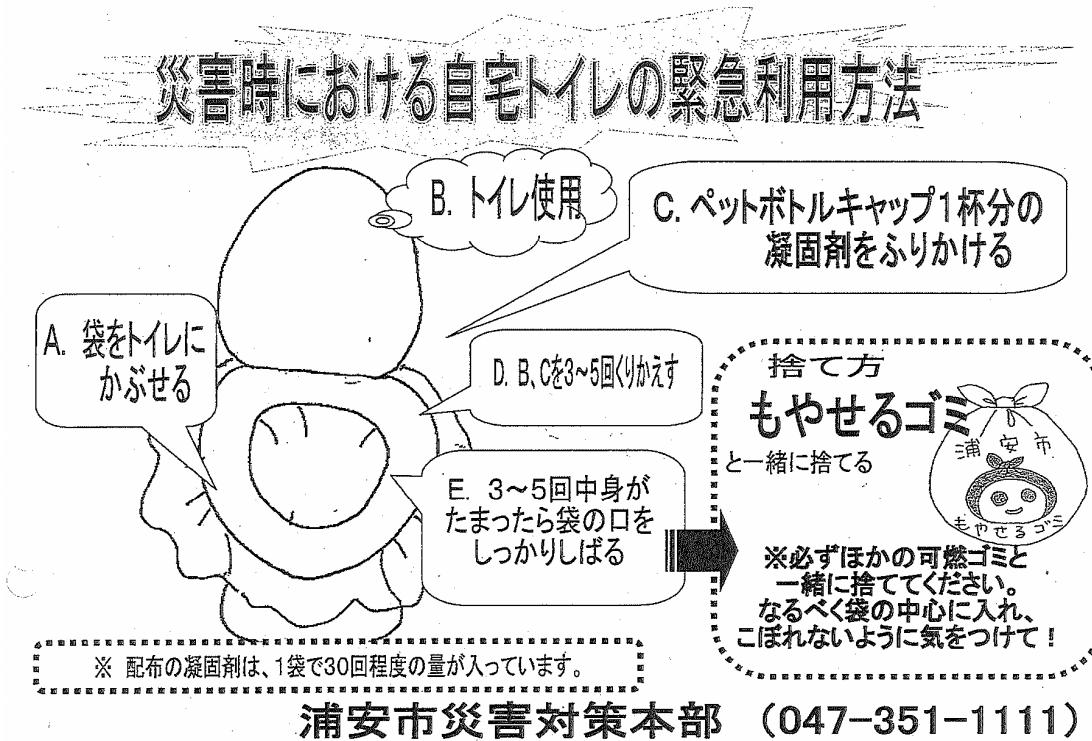
※ただしこれで衛生状態が維持できるかどうかは不明。3日程度ならばギリギリ大丈夫??

1人1日あたり平均  
約2kg

# 東日本大震災（2011） 浦安市の災害トイレ対応 携帯トイレの配布

- ・市域の86%が液状化被害
- ・建物が傾いても建物そのものに問題がなかったので大半の人が避難せず自宅に
- ・公園の仮設トイレは朝特に大行列になって使用できない
- ・そこで簡易トイレ（携帯用トイレ）を下水道の使えない地域に全戸配布
- ・市販キットが間に合わなかったので、凝固剤とビニール袋を集めて体育館でボランティアが袋詰めしたもの
- ・のべ29,626世帯に303,868枚の携帯トイレセットを配布

# 浦安市の災害トイレ対応 携帯トイレのチラシ



市内の収集運搬委託会社の清掃員はこのチラシを見たことがない  
=行政と収集運搬委託企業の連携・情報共有ができない?

# 浦安市の災害トイレ対応 携帯トイレの問題点・衛生ごみの収集運搬

- ・収集は「可燃ごみ」として収集
- ・戸建住宅から多く発生、多くは可燃ごみとは別に出した（し尿の袋を黒い袋に入れて、さらに可燃ごみ袋に入れてごみ出し）
- ・**圧力板でプレスするパッカー車（ごみ収集車）内で破裂**し、作業員が作業中にし尿をあびてしまったり、路上にし尿が落ちたり、衛生面での問題などが生じた（収集運搬会社が掃除）
- ・マンションなどし尿だけまとめて集積したところも
- ・平ボディ車を用意したかったが災害後は車両不足
- ・約1ヶ月間排出が続いたし尿ごみの焼却は問題なし  
(胆振東部地震のとき、札幌市では焼却工場が停電のため止まっていたため、直接埋め立てた)

# 災害時携帯トイレのごみのフロー例

携帯トイレ

使用済み袋（ベランダなどで）保管



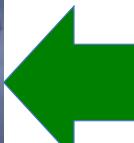
消臭袋



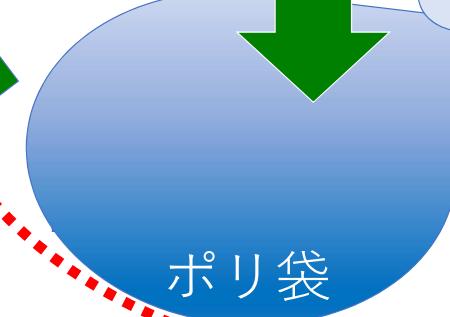
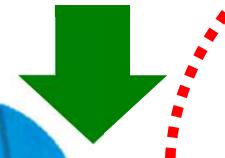
ダンボール箱



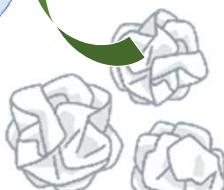
焼却工場へ



道路啓開後に収集運搬



新聞紙など



# 藤枝市災害廃棄物処理計画（2023年5月）

## 第2編 地震等 第2章 処理の基本方針

### 第1節 組織体制（2）担当及び業務内容 下水道課班

- ・所管施設等の被害調査及び報告に関すること
- ・し尿収集必要量の推計に関すること
- ・仮設トイレの設置、撤去に関すること
- ・避難所及び一般家庭からのし尿の収集、運搬に関すること
- ・志太広域事務組合との連絡調整に関すること（し尿関係）

### 第2節 一般廃棄物処理施設（3）仮設トイレとし尿処理体制

- ・仮設トイレは、50人に1基の割合で避難所に設置→資料編資料4
- ・仮設トイレはマンホールトイレ、ボックス型、ハイブリッドの3タイプ
- ・携帯トイレや簡易トイレは市の備蓄資材を活用する一時的な対応とする
- ・指定避難所への配置計画は「し尿処理ガイドライン」において定める

資料編 資料4 仮設トイレの指定避難所別配置計画

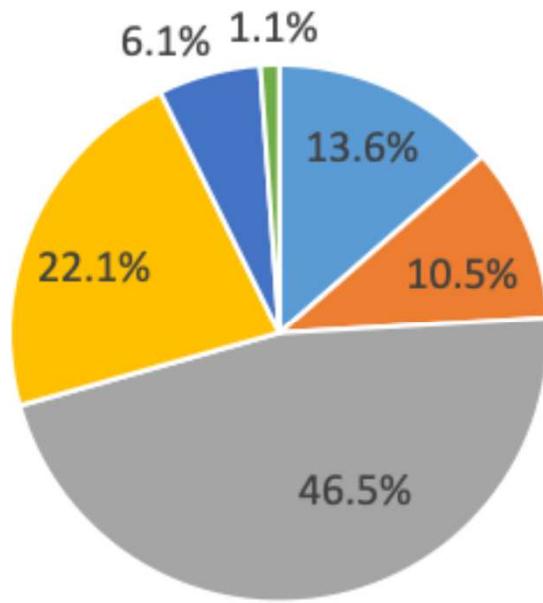
マンホールトイレ131基  
の備蓄あり  
ボックス型トイレ416基  
は協定により調達予定

策定済

# 2020年11月 災害廃棄物処理計画の効果・災害時し尿処理等調査（結果より）

対象： 1741基礎自治体 有効回答率45.8%

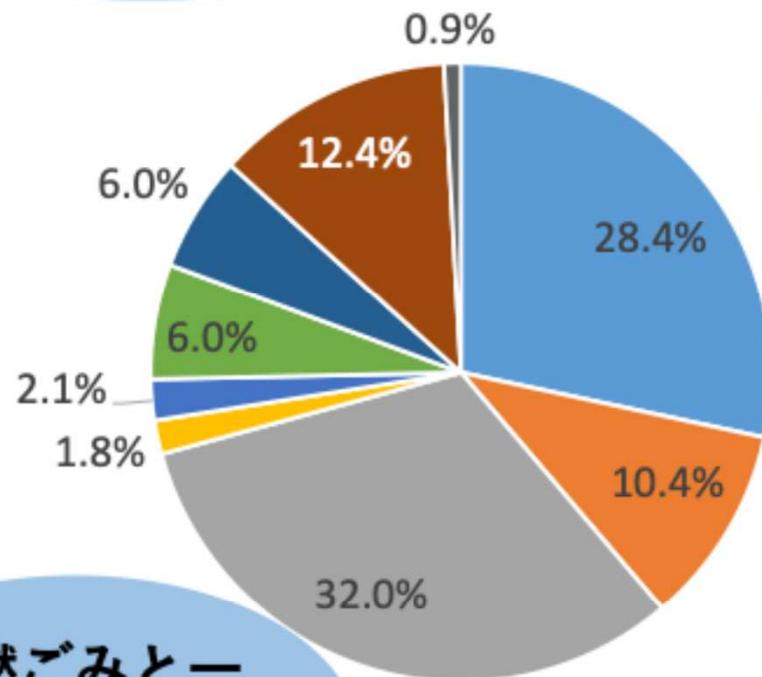
災害時に停電が起こると、トイレの水が流れないことが想定されます。各家庭・各事業所などに、人数分・数日分の携帯トイレの備蓄を促していますか？ (n=797)



- 1. HP、冊子、ポスター等の普及啓発ツールを用いて、積極的に伝えて備蓄をお願いしている
- 2. 特段の備蓄推進はしていないが、今後、防災部署と協力するなどして備蓄をお願いしていく予定である
- 3. 特段の備蓄推進はしていないが、災害時に携帯トイレが使用されるかもしれませんと想定している
- 4. このような普及啓発は考えていない
- 5. その他
- 6. 未回答

各世帯・事業所に携帯トイレの備蓄を促しましょう！

停電・断水が24h  
続いたら、その後  
大量発生



可燃ごみと一緒にせず分別  
集積・収集を

災害時に使用された使用済み携帯トイレの排出と収集方法を、  
どのように考えていますか？ (n=797)

- 1. 大量に排出されることを想定していない
- 2. 収集方法は委託事業者等の判断に任せる
- 3. 可燃ごみとして排出してもらい、可燃ごみと一緒にパッカー車で収集する
- 4. 可燃ごみとして排出してもらい、可燃ごみと一緒に平ボディ車で収集する
- 5. 他の可燃ごみと分別して排出してもらい、使用済みトイレだけをパッカー車で収集する
- 6. 他の可燃ごみと分別するとともに飛散・破裂防止等の措置をしたうえで排出してもらい、パッカー車で収集する
- 7. 他の可燃ごみと分別して排出してもらい、使用済みトイレだけを平ボディ車で収集する
- 8. その他
- 9. 未回答

災害時に使用された使用済み携帯トイレの排出と収集方法を、  
どのように考えていますか？ (n=797)



衛生ごみは優先的に収集し、ピットで保管

# 災害備蓄として家庭で準備するべき携帯トイレ

- ・各家庭でも自分と家族のトイレは自分で確保
- ・1セット = 便器にかぶせる便袋（45～60リットルのビニール袋）+ 固化剤・ポリマーシート
- ・市販の防災トイレ、緊急用簡易トイレ、レジャートイレのいずれでも構わない（セットの方が安い）
- ・家族人数×5回×3日分 = 備蓄最低必要数 \* できれば1週間分  
→ 便袋集積・収集用ダンボール箱も備蓄  
→ 生理用ナプキン、紙おむつ、尿パッド等も備蓄  
→ トイレットペーパー200m備蓄 = 家族人数×3日分

BCPを厳しく策定してある金融機関などでは、オフィスにこれらを完璧に備蓄している

→行政は**住民や事業所、避難所へ携帯トイレ備蓄を促して！**

# 能登半島地震の避難所のトイレの実態 輪島市・七尾市避難所トイレ調査

- 1回目：2024年2月9日～11日
- 2回目：2024年2月23日～25日
- 調査地区：輪島市及び七尾市の避難所
- 調査内容：避難所トイレについてアセスメントを実施
- 日本トイレ研究所のメンバーとしてトイレ調査に参加
- この調査は日本医師会と日本トイレ研究所の連携調査
- 岡山は2日間で10ヶ所の避難所を調査

# 調査時の上下水道状況別の避難所の整理

避難所	上水（水道水）	下水（浄化槽等 含む）	備考
A（輪島市）	○	○	2/6～通常水洗、対口支援長野県（2/12まで）NPO
B（七尾市）	○	○	2/1下水開通、3/3閉鎖、対口支援名古屋市、NPO
C（七尾市）	○	○	2/10～通常水洗、それまで紙を流さない
D（七尾市）	×	△	紙を流さない
E（七尾市）	×	△	紙を流さない
F（輪島市）	×	×	東京都支援、屋内はラップ式簡易トイレのみ
G（輪島市）	×	×	大規模避難所、 <b>携帯トイレ</b> 含む多様なトイレ
H（輪島市）	×	×	屋内はラップ式簡易トイレのみ
I（輪島市）	×	×	<b>携帯トイレ</b> 含む多様なトイレ
J（輪島市）	×	×	プールサイドトイレは紙を流さない

# 下水道に汚物を流せるかどうかの分岐点

<七尾市> 断水に加えて

- ・**大半の地域で下水道への排水は可能**
- ・ただし、汚物（大便・小便）だけをバケツの水で流し、使用済みトイレットペーパーは流さずごみとして集積

<輪島市> 断水に加えて

- ・**大半の地域で下水道への排水が不可**
- ・すると、携帯トイレ、簡易トイレ、仮設トイレ等を使用するしかない

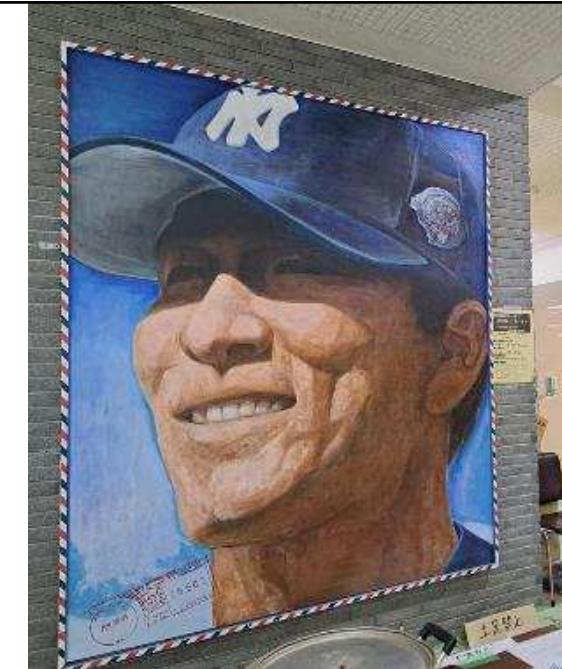
# A避難所（輪島市）



# A避難所（輪島市）

- 2月時点、輪島で唯一、**上下水道とも使用可能**
- トイレットペーパーを流しても良い
- 体育館に避難、体育館のトイレ使用
- 屋外の仮設トイレは最初は和式しかなかった
- 現在は使用していないが**投光器あり**
- 当初は携帯トイレも使用、失敗多かった
- 校舎は市内小学生、中学生、高校生が集約されて通学（2/6～）
- 対口支援は長野県（炊き出し2/12まで）、NPO支援あり
- 給水車は近所の自宅避難・仮設の人が使用

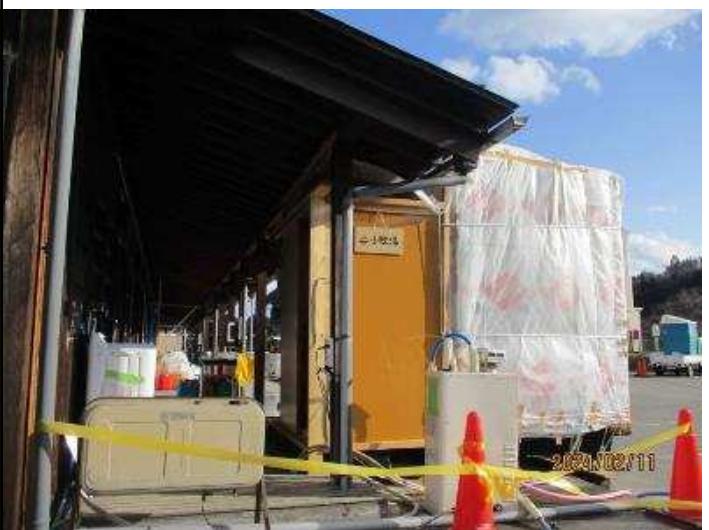
# B避難所 (七尾市)



## B避難所（七尾市）

- 1/1～1/6：小学校のプールの水を300ℓタンクにポンプでくんでトイレに使用、2時間に1回くんだ
- 1/2は男子トイレは外で、室内は男女混合
- 紙は流さないように洗面器で流した、汚物ごみ等は玄関に積む
- 1/3くらいから収集開始、積み上がるほどではなかった
- 1/7から生活水出た、**1/20から飲料可=上下水道開通**
- 1/8は丘の下で下水あふれる、1/13にバキューム、**2/1下水開通**
- **1/8に係の分担つくって実施、避難所運営効率化**
- 大学生避難者のNくんの功績大、対口支援名古屋市、NPO支援
- 3/4閉鎖（近隣避難所へ集約）

# C避難所（七尾市）



## C避難所（七尾市）

- 6~7町会から避難、車いすの人が4日間多目的トイレ使用
- 1/6に道路の向こう側の家屋の井戸を利用、パイプ切り返してポンプアップして貯めたが圧が弱く満タンにならない
- 水洗に使用したが少し使用を我慢してもらったこともある
- みんなで話し合い（女性の発案）、**使った紙などはA4くらいに切った新聞紙に包んで集積**。ニオイ対策（新聞紙多量にある）
- 避難者による自主的運営、対口支援：長岡京市
- 衛生ごみとして月曜・木曜のごみの日に2/10まで毎日回収が来てるので山盛りにはならなかった
- 2/10現在、**下水道開通して通常水洗**



# D避難所（七尾市）

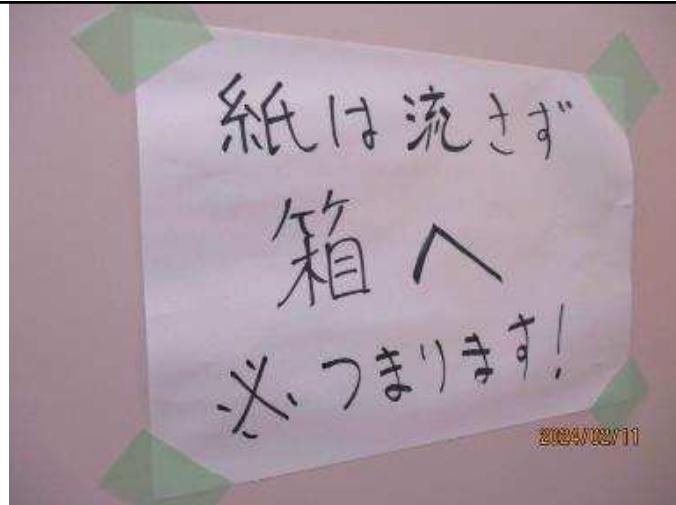


## D避難所（七尾市）

- ・志賀原発から20km圏内のため備蓄物資が豊富だった
- ・1/3まで防災倉庫の中の発電機持ってきて投光器、石油ストーブで暖をとる
- ・発電機のガソリン不足、農耕器具などから集める
- ・**目の前の小水路からおけで水をくみトイレの前に水をおく**=看護師の避難者の発案、対口支援名古屋市が水汲み、トイレ掃除
- ・紙を流さないことをルールとする
- ・2Fはトイレ禁止、年配の人は1Fに
- ・1/4衛生ごみの回収、紙おむつ回収開始
- ・クリーンセンターも1月に復旧、1月終わり頃にごみ収集再開

# E避難所 (七尾市)

ラップ型簡易トイレ（テント付き）



トレーラートイレ



自衛隊風呂あり スクールバス車庫トイレ



# E避難所（七尾市）

- 上下水道不可
- 対口支援 京都府（宇治市）
- 高台にあるので発災直後は約500人避難、現在は26人
- 屋内にはラップ式簡易トイレあり（介助の人も入れる）
- 消耗品は七尾市健康推進課に請求（県が一元管理？）
- 体育館の水は直結式で出る、校舎は地下にタンク、雨水タンク  
それが溜まると水が使える、たくさん流すと溜まるまで使えな  
くなるので待ってもらったことも
- 自衛隊風呂に来る人がトレーラートイレを使用
- トイレカーは水補充が大変、掃除も（京都府）
- D-MATが毎日聞き取りに来てくれる

# F避難所（輪島市）

水循環型シャワー（上）手洗い（下）

ラップ式簡易トイレ



# F避難所（輪島市）

- **上下水道使用不可**
- 対口支援は東京都、30人2交代制、トイレ掃除2時間ごと
- WOTA手洗い機3台、WOTAシャワー男女
- 東京都水道局が簡易水道設置（屋外）、給水車も都水道局
- 当初は携帯トイレも色々きて目まぐるしく状況変化、失敗多い
- 停電はなかった
- 仮設トイレ使用後、柄杓で水を流すルール
- 室内トイレは基本的にラップ型簡易トイレ、携帯トイレは使用なし（発災直後は使用したこと）
- 一見不自由はないように見えるが、歯磨き時の水はおむつ、携帯トイレ、外に吐きに行くなどしているとのこと

# G避難所（輪島市）



トイレカー



自動昇降機付トイレカー



2024/02/10



2024/02/10



2024/02/10



携帯トイレ：トイレ内での集積 汚物ごみ（衛生ごみ）集積

## G避難所（輪島市）

- ・輪島市最大の避難所：2/10時点で**約370人が避難**（輪島市最大）
- ・3つ分の規模の避難所
- ・**上下水使用不可**：あらゆる災害用トイレを使用
- ・対口支援で大阪府が常駐
- ・衛生管理も大阪府、1回/2h 掃除と汚物ごみ出し
- ・その他、キャンナスや日本歯科医師会なども支援
- ・訪問した時には愛知県歯科医師会も来ていた：口を濯ぐの困難

# H避難所 (輪島市)

ラップ式簡易トイレ



携帯トイレ使わず



# H避難所（輪島市）

- 上下水道不可
- 発災当初、地域の避難者が来てトイレ使用
- 1階は入口からしばらく悪臭で近づけず
- とりあえず避難者、行政職員などが**お玉で汚物を掻き出す**
- 当初は手洗い水もないため学校の薬品などでハイター作った
- 職員トイレにラップ式簡易トイレ、**プールの水**を流した
- 大阪府堺市が対口支援、トイレカーの水汲みもトイレ掃除も
- 1/5過ぎ、仮設トイレ2台、その後トレーラートイレなど
- 汲み取りは2日に1回、掃除は1日3回
- 携帯トイレの使用なし、近所の人に分けている

# I避難所 (輪島市)



# I避難所（輪島市）

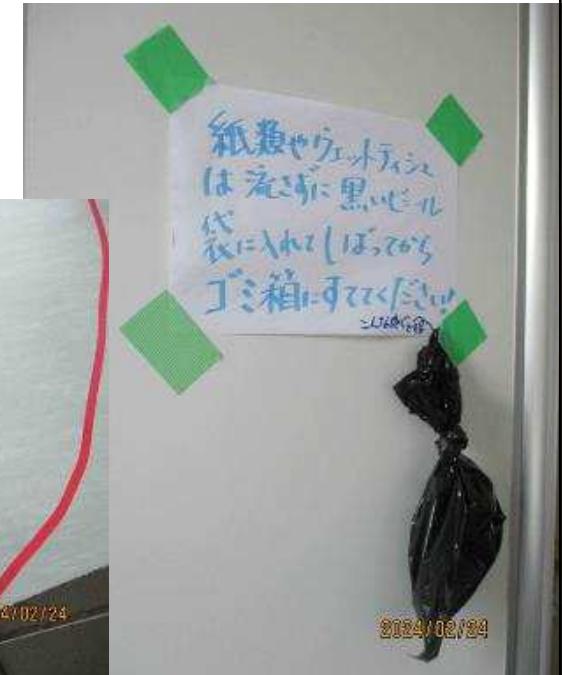
- ・上下水道使用不可
- ・岐阜県が対口支援、トイレ掃除1日3回実施中
- ・屋内のトイレは携帯トイレ、体が不自由な人優先
- ・気仙沼市のトイレカー、給水車
- ・2/24現在、J避難所から移設されたプールの水汲みポンプ・  
プールサイドトイレ（水洗可）が稼働中だったが使用感なし



# 避難所（輪島市）



ラップ式簡易トイレ



# 】避難所（輪島市）

- ・上下水道不通
- ・ただしプールサイドのトイレは使用可能（紙以外は流せる）
- ・校舎は壊れていて立ち入り禁止
- ・体育館に避難、しかし体育館にはトイレがない（校舎側）
- ・発災当初はその校舎トイレも使用、器材倉庫にも便が溜まった
- ・2月8日以降、更衣室をトイレにしてラップ式簡易トイレ等使用
- ・**男性用には座面を高めにする工夫**
- ・若い人や職員は屋外の仮設トイレ、トイレカー、プールトイレ
- ・あかりがないので、夜間は困る（2月下旬時点でも停電中）
- ・手洗いができない、口をゆすいだ水は携帯トイレなどへ

# 能登半島地震の避難所トイレ調査の所見

- ・トイレ弱者である女性がトイレ管理をするとトイレストレスが減る傾向が見られる（女性による工夫や配慮重要・過剰な女性負担が懸念）
- ・避難所で簡易水道などを臨時で作れると一気に環境改善
- ・発災後しばらく**携帯トイレやラップ型簡易トイレ**を使用した際、男性トイレでは**立ちションによる尿の撒き散らし**など発生、そのため携帯トイレ使用をやめた避難所あり→座りションのルール化必要
- ・屋内はラップ型簡易トイレだけの避難所多数（高齢者使用）
- ・介助必要で男女でトイレに入りたい場合はテントの簡易トイレ有効
- ・トイレカー・トイレトレーラー導入多数、マンホールトイレ使用なし→下水道が破断するとマンホールトイレ使用不可
- ・男性は女性と比較して小便の場合は屋外トイレでも許容しやすい
- ・**トイレカーなどで足を踏み外す事故**（高齢者女性）数件
- ・コロナの影響で除菌関連の備蓄は豊富だった（不幸中の幸い）

# 避難所の水遣いに関する不便＝ストレス

- 上下水道が2月末現在不通（過疎地域・インフラが古くて脆弱）
- 4月5日 七尾市は上水道全面復旧 ただし下水道は不通地域有
- なんとなく水が出る避難所・トイレの水が流れる避難所はある  
(本当に下水管が下水処理場まで通じているかは不明)
- 断水24時間以上：**携帯トイレ・マンホールトイレを使用せざるを得ない＝備蓄重要**
- 普段と違うトイレ使用：**ルール合意や慣れに時間がかかる**
- 手を洗えない（気分の問題）
- 全ての排水（うがいの水など）にオムツや携帯トイレを使用（**高齢者は外に行けない**）
- 地域的に井戸水豊富・しかし水汲みは困難

# 災害時のトイレ形態とトイレ関連廃棄物

- 上水・下水が問題なく使える状態：おむつ、ナプキン、尿パッドなど
- 上水不通・排水に不安が残る状態：
  - ①水を確保してトイレに流す場合：上記に加え、使用済みの紙
- 上水不通・下水への排水不可の状態：
  - ②携帯トイレ等を使用する場合：上記に加え、汚物入り便袋、外袋
  - ③仮設トイレ・トイレトレーラー等を使用する場合：汲取りし尿
- ①②③いずれも毎回のトイレのストレス大
- **特に女性と子ども**（バケツで水を流すこと、屋外のトイレを使うこと、毎回使用した紙を別にしてごみ箱に捨てなくてはならないこと）
- 発災直後は洗濯できず衣類も使い捨て状態になり、そのごみも出る

# 災害時トイレに関する行政部署

- ・省庁においても防災は内閣府、下水道は国交省、集落排水は農水省、衛生は厚生省、浄化槽・し尿処理は環境省、避難所が学校の場合は文科省、地方自治体が保有する災害備蓄トイレを調達するのは総務省、民間は経産省と多岐にわたる
- ・環境（清掃、廃棄物処理）、防災、福祉総括、男女共同参画など、災害時トイレに関連する部署は**30部署**にわたる
- ・「**災害時のトイレの確保・管理**」に関する部署は**21部署**にわたる（加藤篤 NPO日本トイレ研究所「トイレから始める防災ハンドブック」）
- ・災害対策本部においては、そこに参集しているすべての部署がトイレ及びそのし尿処理に関する（備蓄・準備・運営・処理）
- ・それを忘れずに！

# 行政の災害トイレ対応

- ・行政は必ず避難所に災害用トイレの設置を求められる
- ・仮設トイレ・マンホールトイレは屋外設置、必ずしも（女性）被災者にとって「使えるトイレ」ではないことに留意
- ・トイレカー等も「トイレパニック」回避手段にはなりにくい
- ・マンホールトイレ・携帯トイレは発災直後から使用可
- ・そこで避難所・自宅避難（つまりすべての世帯・事業所）において携帯トイレを使用できるよう備蓄促す
- ・想定人数×5回×7日分 = 備蓄必要数
  - 生理用ナプキン、紙おむつ、尿パッド等も備蓄
  - トイレットペーパー200m備蓄 = 人数×7日分
- ・発電機とポンプで「既存トイレ」使用できるとより快適性向上

下水道が破断、下水処理場やし尿処理場が壊れている時も

# ★行政は市民の命を守るためにどうする？

- ・発災後の「トイレパニック」を未然回避することが肝要
- ・そのためには、最初の大便を避難所トイレの便器内に排泄させないようすることが重要
- ・その手段としての**携帯・簡易トイレ（屋内トイレ）**
- ・避難所開設と同時に大型プラ袋を様式便座を被せる（**水と隔離**）
- ・屋外ですぐに使えるのは**マンホールトイレ**
- ・市民に携帯トイレの備蓄を促すだけでなく、実際に使ってみることを促す（**人は使ったことがないものは非常時も使えない**）
- ・マンホールトイレとラップ型簡易トイレは行政も設置訓練必要
- ・使用済み携帯トイレの分別集積・排出ルールの徹底も重要

# ★携帯・簡易トイレの留意すべき点

- ・「大規模災害時の最初の排泄で使うトイレ」という認識を持つ
  - ・携帯トイレセットだけでなく関連物資も備蓄
  - ・避難所での備蓄は当然、各世帯・各事業所での備蓄も促す
  - ・行政・事業所のBCPのためにも備蓄を
  - ・防災訓練では実際に使って分別して捨てる体験をする
- 
- ・最初に大型袋を便座に被せて水から遮断する
  - ・ベランダなどで数日使用済みトイレを保管、避難所でも保管
  - ・（使用済み便袋を入れる）大型消臭袋も備蓄必要
  - ・保管場所を決めること→屋根があって収集しやすい場所
- 
- ・行政は発災後2～3日目には衛生ごみ収集を開始すべき（そのための平時からの体制づくりを）

# どんな携帯トイレが良いか？

- ・その認証・選定は難しい
- ・現在、多種多様な携帯トイレが売り出されている
- ・NPO日本トイレ研究所が基準化（規格化）
- ・GPNも近々災害備蓄物資ガイドライン策定予定
- ・ちなみに渋滞用トイレでは…（モミモミについて）



# マンホールトイレとトイレカーの留意点

- ・マンホールトイレは平時から設置訓練を行うことが肝要
- ・マニュアルがあっても実際にはマンホールを開けることも困難
- ・テント組み立ても案外手間取る（風があると特に）
- ・トイレカーは自治体に1台程度しかない
- ・自ら使う場合は**災害対策本部用の災害用トイレ**の位置付けが良い
- ・基本は他地域で大災害が起こった時の支援ツール
- ・ただし、支援先の距離によっては24h以内に間に合わない
- ・自らの自治体が被災した際には他地域から同様の**トイレカー受援**として使う（どの避難所に何台配備するかを事前に検討必要）

# マンホールトイレ訓練実践例（四日市市）

- ・マンホールトイレは平時から設置訓練を行うことが肝要
- ・マニュアルがあっても実際にマンホールを開けることも困難
- ・テント組み立ても案外手間取る→（4人で）組めるよう訓練大事



災害時に備えトイレの組み立てなど確認 し尿処理特化の訓練を実施 四日市市

11/14(木) 17:45配信

YouYokkaichi



下水道直結型式トイレの組み立てをする職員ら=四日市市日永東

# できるだけ室内の排泄の確保を：し尿貯留槽



- ・四日市市総合体育館下に2,400m<sup>3</sup>中水貯留槽（=災害時7日分の便槽）



※四日市市総合体育館には、最大1,600人が避難する計画



# 最後に

- ・災害用トイレは、どれも普段使っているトイレと全く違う
  - ・毎日使っているトイレではないトイレは誰にでも使いにくい
  - ・頭でわかっていても使えない・失敗多数
- 
- ・だからこそ、**事前の備え（訓練）と心構えと覚悟が重要**
  - ・まずは**携帯トイレを使ってみてください**（結構嫌な感じです…）
  - ・男性は必ず座りション、トイレ掃除も自分で！
  - ・さらにマンホールを開けて実際にトイレ設置してテントを組んでみてください（3~4人で）
  - ・5回くらいやると、人に指示できるようになります
  - ・**数日間の使用済み携帯トイレの保管場所を決めておくことも重要**

ご静聴ありがとうございました  
ご質問をどうぞ



岡山朋子 連絡先

[t\\_okayama@mail.tais.ac.jp](mailto:t_okayama@mail.tais.ac.jp)